

大阪工業大学工学部 学生員 ○佐々木崇臣

大阪工業大学工学部 竿本 隆彦

大阪工業大学工学部 正会員 吉川 眞

1. はじめに

戦後、わが国は豊かな生活を求めて、その基盤となる都市建設を押し進めてきたが、機能重視により気候風土や文化を無視したまちづくりを行ってきた結果、かえって豊かさを実感できない状況となっている。歴史ある建物や町の情緒は失われ、画一的な建築物や構造物が建ち並び、どこの町も同じような特徴のない、あるいは文化のない街並みとなってしまっている。しかしながら、歴史ある景観が失われていく中で、市民運動などにより歴史的な景観を保全したまちづくりが進められている例も増えつつある。今後、各地域がもつ貴重な歴史、文化を残しながらまちづくりを進めていくのが都市としてのあるべき姿であると考ええる。

2. 研究の背景と目的

現在、枚方市では歴史的景観が消失していく中で、都市景観基本計画で歴史的建造物指定を行うなど歴史的な景観を保全しようと制度の整備を図っている。また枚方宿地区住民も協議会をつくり住民が主体としたまちづくりに取り組んでいる。

枚方市は西に淀川が流れ、東には緑豊かな生駒山系の山々があり、江戸時代に品川から大津までの東海道 53 次に加え、徳川家康の五街道の整備に伴い設けられた京街道の伏見宿、淀宿、枚方宿、守口宿は、京・大坂間の宿場として栄えた。京街道沿いの宿場町の1つである枚方宿は、街道沿いばかりでなく、淀川の舟運とも密接に繋がっていた。「鍵屋」と呼ばれる船宿の存在は、往時の関係を今に残している。

当時の枚方宿の資料からは、万年寺山・三十石舟・町家・街道の関係が景観的に密接に繋がっている。河内名所図会の「枚方・万年寺」を見ると、万年寺山と淀川の間で京街道沿いに宿場の町家が並び、淀川には添景となる三十石舟が描かれている。舟を利用して淀川から鍵屋へアプローチすると、鍵屋の背後に万年寺山が見えたことであろう(図-1)。また、参道は万年寺と町家を結ぶ役割を果たし、枚方宿ならではの風景を映し出し、人々の文化的・精神的な結びつきを垣間見ることができる。そこには、自然に代表される地形や、都市的位置などを利用した環境への配慮と知恵が歴史的に集積されてきていると考えられる。

枚方宿では万年寺山・淀川・町家との相互関係が強いことや歴史的景観が存在することから、関係の操作による景観デザインと対象の改変(保護、保全、改善、創造)による景観デザインの2つの観点より枚方宿の変遷を表現し、枚方宿の近代から現代における町家や街路景観デザインについて考察する。

3. 対象地区と CAD/CG、GIS の活用

歴史的試練を経て形成された街並みは景観デザインの典型例であるといえ、歴史的建造物が建ち並ぶ枚方宿も同様と言える。こうした街並み景観をデジタルな空間情報とすることは、現代都市空間をデザインする際、重要な資料となる。また、より現物に近づけば近づくほど街並みの問題点を見つける手がかりとなり、CG による鳥瞰図をはじめとして、さまざまな視点で対象物をとらえることができる。また GIS を

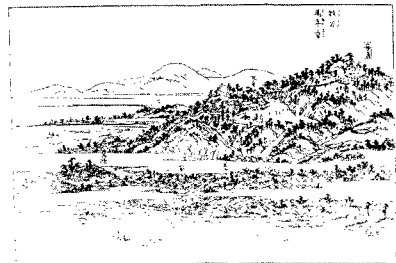


図-1 河内名所図会

用いて、建物にその用途などの各種属性を付加し、変遷をビジュアルに表現できれば、都市がどのように変化してきたのか、今後どのように変わっていくのかなども、予測可能になると考えられる。今回、GIS による分析では、枚方宿街道沿い全体を対象とし、また CG では現在も資料館として使用され、江戸時代にも船宿として賑わった鍵屋がある堤町を対象とした（図－2）。

4. 分析結果

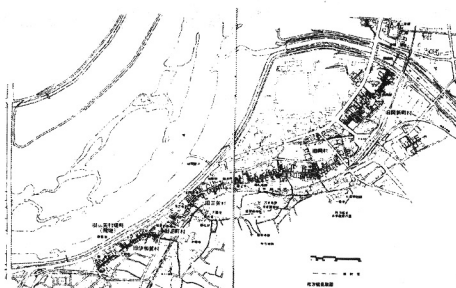
GIS を用いることで、枚方市駅周辺の高層化、1987年の調査時から2000年9月の間に57軒あった町家が27軒になり、跡地利用が駐車場や空き地になっている個所が比較的多くあることが知ることができる。これらの跡地利用方法も歴史的景観を考える上できわめて重要である（図－3）。

堤町では町家が1987年調査時から現在までのわずか13年間でも、13件から6件へと減少している。CGによる3次元的分析からも明らかのように、このような家屋の新築に伴う町家の減少とともに、町家ならではの切妻などといった屋根形状、庇、壁面の連続性といった、街道の史的特質、空間的な連続性が失われつつある（図－4,5）。また、現存する町家においても、居住者の生活様式の変化に伴う部分的な改築、破損・劣化などによる外壁の貼り替えなどが行われ、町家本来の歴史的情緒豊かな雰囲気も急速に薄れてきている。

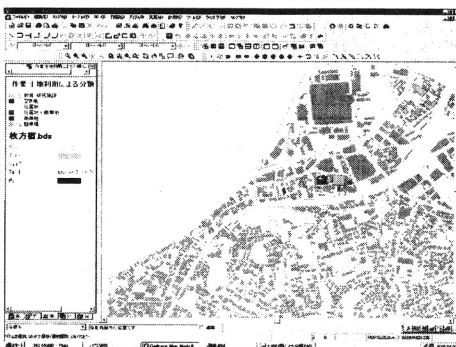
5. おわりに

本研究は、景観形成支援の一環として、CAD/CGとGISを用いた景観保全地区シミュレーションであった。CGによる変遷景観の表現でもわかるように、街道沿いの歴史的建造物の減少により、歴史的街並みの雰囲気が失われつつある。枚方宿地区協議会で出されている歴史・文化と現代の融合を望む地域住民の意見なども参考にし、旧枚方宿の景観デザインの形態崩さない、歴史的空間を活かしたまちづくりが必要なのではないだろうか。

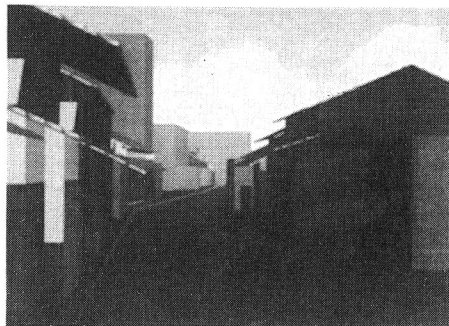
今後の課題としては江戸期以来の枚方宿と淀川などの地形の復元を目指し、町家と街道の関係のみでなく万年寺山と淀川の関係性の特徴を見つけながら、ロングスパンでの変遷景観を見ていく必要がある。



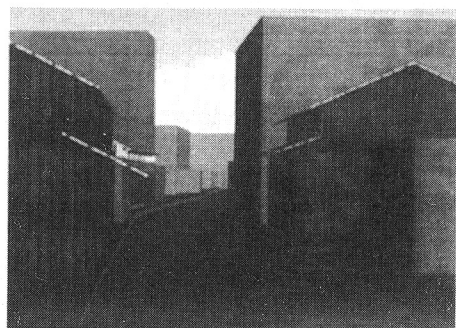
図－2 調査対象地区



図－3 土地利用による分類



図－4 1987年の状況



図－5 2000年現状